JAPAN × ITALY

中後がロスタイムに劇的決勝ゴール！！

ロスタイムに劇的なゴールをあげ喜びを爆発させる中後。怪我に苦しんだエースが土壇場で大仕事を成し遂げた（撮影・岩田陽一）

第２２回ユニバーシアード競技大会男子サッカー決勝

日本3－2イタリア

イタリアとの激戦制し、ついに頂点に!!

ロスタイム、**中後**のミドルシュートがイタリアゴールに突き刺さると歓喜の瞬間はついに訪れた。「絵に描いたようなことがすべて最後に起こった。まだ実感が沸かない」。この**西田監督**の言葉からも分かるようにそれだけ劇的な優勝であった。

決勝戦の相手は開催国であり優勝候補の韓国をグループリーグで破りここまで勝ち上がってきたイタリア。「イタリアのサッカーは昔から好きだった。相手に不足はないですね」（**岩政**）と選手たちの気合も十分。そのため、序盤からガンガンいくのかと思われたがそこは決勝戦。静かな立ち上がりを見せる。序盤からなかなか、均衡が破れないなか先に仕掛けたのはイタリア。16分、**ムリナ**からパスを受けた**セルチア**がゴールから40メートルはあろうかという位置から意標を付くシュート。これが日本のゴールネットに突き刺さり先制を許してしまう。しかし、「こういう試合展開は経験していたんで焦りはなかった」（**堀**）というように22分。**中後**のCKから**岩政**がニアでヘディングシュート。このチームをまとめてきたキャプテンの一発ですぐさま同点に追いつく。「すぐさま同点においつけたのはおおきかった」と試合後中後はこの得点を振り返った。しかし、試合を振り出しに戻すもこの後は両チームの守備がひかりチャンスを作れず前半終了。

後半は開始早々から日本が仕掛ける。48分こぼれ球を拾った**前田**が**堀**へスルーパス。**堀**がこのチャンスを見事ものにし逆転。「冷静に決められた」（堀）という堀のシュートは日本に栄冠をグイッと引き寄せた。その後も中後のセットプレーなどを武器にイタリアを攻め立てる日本。しかし、「逆転してからすこし守備の意識が強くなってしまった」（**西田監督**）というように59分に**タリビオ**のヘディングがバーを直撃すると62分、**ニコラ**の個人技に守備陣が翻弄されてしまい同点ゴールをゆるしてしまう。しかし、ここで崩れないのがこのチームが一戦一戦成長してきた証拠。守備陣はイタリアの猛攻に対し粘り強いディフ